

## 新たな武漢市の産業戦略について

大分市武漢事務所 賈 芳

### ■ 武漢市が“産業地図”を編制、各区の産業の位置付けが明確に



#### 「3851」産業構造改革を推進し デジタル経済に力を入れる

武漢市は共産党委員会第13期第九回全体大会において、武漢市の「産業地図」を作成し、各市内行政区の産業的位置づけを明確に示した。特色ある産業のための集中投資・統一立地を推進し、適当化による過剰競争を避けるのが狙いだ。武漢市の特徴に合う産業を選択し、産業の差異化、健全な発展を実現するための新たな戦略が示された。

武漢市統計局が発表した「2020年第一四半期経済データの解説」によると、武漢市は華中地区最大の製造業都市であり、38の工業分野をカバーし、そのうち「自動車製造業」「コンピュータや通信及びその他の電子機器製造業」「電力と熱力の生産と供給業」「電気機械と器材製造業」の4つの業界の生産額はいずれも一千億元を超えている。建築業の総生産額と「四上」新ハイテク産業の生産額はいずれも1万億元を突破している。

産業立地の視点から見ると、武漢市は各区それぞれが特色ある産業が立地している。五大産業基地を例にとると、四大国家レベル産業基地が武漢市の異なる地区に分布している。東部の東湖高新区には国家メモリ基地、西部の臨空開港区には国家ネットワーク安全人材と開発基地、北部の新洲区に国家商業宇宙飛行産業基地、西南部の武漢開発区に国家新エネルギーとスマートネットワーク自動車基地がある。また大健康産業基地は東湖ハイテク開発区や江夏区に立地している。

#### 「3851」システムとは？

- 3：光電子情報、自動車及び部品、バイオ医薬の3分野で世界的な産業クラスターを構築する。
- 8：設備製造、鋼材及び高付加価値加工技術、食品・タバコ、エネルギー、家電、石油化学、紡織・衣料、建築資材の8分野の伝統重点産業を強化する。
- 5：商業宇宙飛行、水素エネルギー、人工知能、5G、ブロックチェーンの5分野の新興先端産業を育成する。
- 1：工業設計、検査、工程設計、ビッグデータ、電子商取引、工業インターネットなど、現代の製造業に欠かせないサービス産業の発展を加速する。

## 今年に入り、世界レベルの産業クラスターが続々と立地

光電子情報産業においては4月30日、武漢市とファーウェイ（華為）が「Kunpeng生態やKunpengコンピューティング産業を共同で作る」という戦略提携契約を締結した。同日、長江Kunpeng生態イノベーションセンターを設立した。5月に、華工レーザー社が開発した三次元五軸レーザー切断機が江鈴自動車の工場に設置された。位置決め精度は0.03ミリに達し、刺繍針の程度に相当する。7日間24時間連続での安定稼働を実現し、これまで輸入していた設備に初めて代わることができた。

自動車及び部品産業においては、6月12日に東風自動車技術センターの試験生産工場で、国内初の完全自主開発のL4級5G自動運転車「Sharing-VAN」が正式な量産過程からラインオフした。その3日後には武漢市が、武漢経開区と江漢区に82キロにわたる公道を新設し、インテリジェントコネクテッドビークル（ICV）のオープンテスト走行区間とモデル応用区間として使用することを発表した。

バイオ医薬産業では、BGI（華大基因）武漢の「火眼」実験室のトータルソリューションがサウジアラビアなど世界各国に輸出されている。6月には世界トップで、中国最大の医療機器研究開発生産企業マインドレイ・メディカル（邁瑞医療）が武漢市に第二世界本部を開設した。

## 3年を目標に全国のデジタル経済の第一線都市を建設

武漢市の産業発展の重点の中で、デジタル経済は突破性のある産業に位置づけられている。新たに打ち出された関連案によると、3年間で全国のデジタル経済の最先端都市を目指すという。

方案によると、武漢市は「ABCDG」などの新興産業の発展を大きく促進する。情報によると、武漢市はすでに国家レベルの新たな人工知能イノベーション発展試験区に指定されており、今年中に5G通信基地を新たに5万か所以上設置し、武漢市街地の屋外全域が5Gネットワークでカバーされることを実現するという。

## ABCDG新興産業とは？

- A：人工知能
- B：ブロックチェーン
- C：クラウド計算
- D：ビッグデータ
- G：5G

ABCDG新興産業は「光芯屏端網雲智」産業クラスターを形成する。

## 「光芯屏端網雲智」産業クラスターの発展

今年に入ってから、「光芯屏端網雲智（光電子、半導体、液晶パネル、情報端末、ネットワーク技術、クラウド、人工知能を指す単語の頭文字）」産業クラスターがますます盛んになった。武漢市にはすでに国内最大の光通信技術研究開発基地、最大の光ファイバーケーブル、光電素子生産基地が建設された。また光バレーには100社余りの5G産業チェーン企業が集まっている。世界初の128層QLCフラッシュ・メモリも武漢市で誕生した。TCL武漢華星は国内初のフレキシブルな折りたたみディスプレイの生産ラインの強化を発表した。東風自動車は国内初の完全自主開発のL4級5G自動運転車の量産を始めている。工業インターネット標識解析のトップノード（国家頂級節点）武漢はすでに4億元超え工業の認度を獲得し、華中地区で最大規模、最高クラスのデータセンターがまもなく操業する。シャオミー（小米）武漢本部の承認を受けた湖北省人工知能技術革新センターもすでに稼働しており、先端技術は武漢市で絶えずに成長している。



武漢光谷の街並み①



武漢光谷の街並み②



※写真は武漢事務所スタッフ撮影